

ワンタッチBOXで、 コストダウンと生産性改善

哺乳子豚は寒さに弱く、母豚は暑さに弱い…。こうした生理に合わせた環境管理を徹底できているでしょうか？ここでは、自動保温箱「ワンタッチBOX」で生産性の改善、コストダウンを実現した石崎農場を紹介します。



石崎農場の皆さん。
写真左端は営業担当の大阿久務さん（森久保薬品株）、右端はワンタッチBOXの発売元・田中光夫さん（株）ニチメン工業

すぐに回収できそうです。費用対効果の高い資材だと思います」と話す。

省エネルギーのポイントになっているのは、温度コントロールである。ワンタッチBOXにはセンサーによって内部の温度を計測し、調節する機能が付いており、最適温度になるとコルツヒーターが自動でオフになるため、電気代を最小限に抑えることができる。電気ヒーターやマットなどの熱源を利用している場合は、ワンタッチBOXへの交換で電気代を年間50%以上削減できる農場もあるという。日齢が進むにつれて設定温度が自動的に下がるシステムのため、離乳豚舎に移動したときの温度ギャップが少ないのもメリットの1つだろう。

ガス代、電気代が約半分に！

栃木県の石崎農場では昨年、分娩豚舎の新設に伴って、自動保温箱「ワンタッチBOX」を導入した。同農場では、以前は豚房ごとに床暖房とガスブローダーを設置して子豚を保温していたが、温まった空気が全体に拡散してしまうという問題に悩まされていた。場長の石崎敏夫さんは、「冬場は熱が上部に逃げるため暖房効率が悪く、夏場は舎内温度が上昇して、母豚に悪影響が出ていました」と、当時を振り返る。

そんなとき、森久保薬品株の紹介で出会ったのがワンタッチBOXだった。ワンタッチBOXは、母豚と子豚の双方に快適な環境をつくる画期的な保温箱。箱本体はステンレス製で、熱源にはコルツヒーターを用いている。

一般的な保温箱と大きく異なるのは、密閉度が高く、保温性に優れていることだ。保温箱を設置していても、箱の上部にすき間があったり、熱伝導率の高い素材では熱が外に逃げてしまう。その点、ワンタッチBOXの壁には断熱材が入っており、密閉度も高いため熱が拡散しない。これにより、同じ豚房内の温度を二分することができるわけだ。

「ワンタッチボックスの設置後は、思い切って換気し、豚舎全体の温度を下げられるようになりました」と石崎さんは言う。導入当初は一部の豚房にしか設置できず、舎内温度も下げられなかったが、1部屋すべてに設置してからは、母豚と子豚の最適温度を整えられるようになった。「母豚の餌食いが良くなって、泌乳量が増えたんです。おかげで子豚の離乳体重も増えました」と喜びの声を上げている。母豚の乳質が変わって、子豚の下痢が減るというメリットもあった。

成績の改善以外に、ガス代、電気代などコスト面のメリットも大きい。石崎農場では、ガス代は以前よりも40～50%削減され、電気代も分娩豚舎での利用分は半減。「床暖房とガスブローダーの併用に比べてインシヤルコストはやや高くつきましたが、ランニングコストが削減されたので、

“使いこなす”ためのアフターフォローが充実

子豚が温まるには最高の設備だが、効果を得るためには子豚自身で箱の中に入ってこれなければならない。保温箱に入ることをなかなか覚えさせられず、手こずるケースは多いが、ワンタッチBOXの場合は、特別な作業は不要だという。「子豚を閉じ込めて箱を覚えさせることもありますが、めったにやりません。スイッチを入れておけば、暖かさや明るさにつられて自然と箱の中に入ってくれます」と石崎さん。ワンタッチBOXの設置に当たって、発売元の田中光夫さん（株）ニチメン工業が現場をチェックし、最適な設置方法と使い方をアドバイスしてくれたこともあり、「豚が入らない」「うまく機能しない」といったトラブルは全くないという。「分からないことがあっても、質問するとすぐに答えてくれます。アフターフォローがしっかりしていると、助かりますね」と話す。

資材自体の性能の高さはもちろんだが、豚舎形態などの違いがある中では、自農場に最も適した設置や使い方の検討も重要である。効果を最大限に発揮するために不可欠な“サポート体制”が整っていることは、厳しい時代の製品選別に欠かせないポイントではないだろうか。



ワンタッチBOX。ステンレス製のため耐久性に優れ、洗浄・消毒もしやすく衛生的



日齢に合わせて自動的に最適温度になるため、子豚はいつも快適

まずは
お問い合わせ
ください

(株)ニチメン工業
宮崎県都城市早水町3482-3 A-3号
TEL 0986-36-5781
FAX 0986-36-5782
E-Mail tanaka@nichimen.jp
HP <http://www.nichimen.jp/>

(株)サン・ダイコー
動薬事業本部 担当：村上
福岡県福岡市博多区豊1-9-15
TEL 092-474-3339
FAX 092-414-8918
E-Mail murakami29a@forestg.jp

森久保薬品株
担当：相澤
神奈川県厚木市栄町1-8-17
TEL 046-222-2333
FAX 046-222-1266
E-Mail y-aizawa@morikubo.co.jp